

ACKU 例会 第 111 回 氷ノ山スキー山行記録（速報版）

記録者；尾崎竜平

写真編集者；田中信行

1) 日 程 ；平成 20 年 2 月 23 日（土）～24 日（日）【一泊二日】

2) 参加者 ；金井良、高田和、緒方、矢崎、壺阪、藤本亜、尾崎竜、尾崎優
高田誠、本澤 以上 10 名

3) 記 録 ；2 月 23 日（曇） 9:10 氷ノ山国際スキー場リフト終点

10:10 東尾根取り付き 11:25 東尾根避難小屋 13:30 一ノ谷出会い

14:45 千本杉ヒュッテ



（大段平への夏道と東尾根林道との分岐点にて、尾崎竜平撮影）

氷ノ山国際スキー場リフト乗り場にて 8 時集合。ところが、神戸から朝出発した尾崎竜平、優子夫妻は一時間の遅刻をしてしまう。すいませんでした。そのため 9:10 氷ノ山国際スキー場を出発。天候は雪模様。頂上方面は厚い雲に覆われている。

スキー場からすぐに、東尾根への直登登山道の分岐となる。ここで、ワカンで参加していた我々尾崎家 2 名のみ、本隊より分離して直登登山道を登らせてもらうことにした。東尾根避難小屋集合とし、林道を行く本隊と分かれる。

雪は思ったよりしまっていて、当初は順調に進むが、そのうちに夏道を見失い、しばらくルートに迷う。そのうち尾根へ向かって直上すると、小屋から 100m ほどの地点に出る。小屋で少々待つと、本隊も 11:25 到着。聞くと 10 時過ぎに尾根末端に取り付いたという。しばらくの休憩の後、全員で出発。尾根上はトレースも無かったが、順調に進み、13:30 一ノ谷出合となる。ここから木のまばらな広い斜面を一気に登り切る。

藤本、矢崎、尾崎でモンスターを探しながら先頭を進むが、なかなか見つからない。それらしい木かと思って千本杉ヒュッテを探すが、見つからない。これは登りすぎだとなつて、少々下り、やっとヒュッテ発見となる。昨年に比べ、かなり雪が多いそうだ。ヒュッテのテラスはほぼ雪洞状態。

小屋の入り口を掘り出したりするうちに全員無事に到着となる。夜は皆さんのが持ち上げた食材、酒で盛大な宴会となる。



(今冬は雪が多い、千本杉ヒュッテは雪に埋もれていた。高田和三撮影)



(千本杉ヒュッテのテラスは雪洞状態、高田和三撮影)

2月24日（雪） 8:20 千本杉ヒュッテ 9:05 一ノ谷出会い
10:25 東尾根避難小屋 12:25 氷ノ山国際スキー場リフト終点



（一の谷の頭から滑る皆さんを眺めるワカン歩きの妻優子。尾崎竜平撮影）

起床後、昨日の食べ残しなど織り交ぜて朝食をとる。さて、外に出てみると、あいかわらずの雪模様。夜の内にさらに雪が 20~30 cm 積もったようだ。ヒュッテの清掃、雪かきの後、小屋を出る。この間、尾崎（夫）はカッパのおしりを大きく破いてしまい、藤本よりガムテープをもらって応急修理する。とほほ。

天候も悪いため、ブン廻しコースを断念、往路下山となる。



（天候不良でブン廻しコースを断念、東尾根コースを下山する）

記念撮影の後 8:20 ヒュッテを出発。視界が良くないので、一団となって進む。

一ノ谷上まで順調に進むが、さて急斜面を下降する地点がよくわからない。全員で地図、コンパス、G P S を駆使してルート探した結果、無事に下降地点を発見。自分のルートификаインディングの力はまだまだと実感。

さて、次第に広い斜面となり、ここからはスキー組が楽しいところ。ひやっほうとうを楽しむ皆さんを、うらやましげに尾崎家は見送った。

狭くなった尾根を進み、10:25 東尾根避難小屋着

ここから往路に同じく、ワカン組の尾崎家だけ尾根から直登登山道に沿い、真っ直ぐ下降させてもらう。ほどなく氷ノ山国際スキー場に到着し、30 分ほどでスキー組も到着し、12:25 山行無事終了となった。

今回は雪も多く、二日間とも非常に楽しいものだった。来年も是非参加し、ブン回しを実現したいと感じた。そのときはできれば自前のスキーを履いて参加したいものだ。

（尾崎竜平 記）